

平成22年度「日中韓等の大学間交流を通じた高度専門職業人育成事業」選定理由

申請大学：富山大学

取組名称：和漢薬領域を基盤とした高度職業人育成事業

—和漢薬を創成・選択できる人材の育成プログラム—

本取組は、和漢薬をテーマとして設定していますが、富山地域における歴史的伝統と、富山大学におけるこれまでの研究教育の蓄積を生かした独自性あふれる計画となっており評価できます。

また、これまで薬学におけるインターンシップは実績に乏しく困難であると考えられていましたが、既に県内の製薬会社等からインターンシップ受入の確約を得ているなど、産業界との連携が進展することが期待できます。

なお、今後、中間評価の段階までに、達成目標について、より定量的で明確な指標を設定するとともに、事業計画について、人数や時期、取組内容などをより具体的かつ明確にしていくことが望まれます。その際、高度専門職業人である製薬企業技術者と和漢薬臨床薬剤師の二者を養成するプログラムとして、それぞれの特徴を明確化、差別化することも期待されます。

また、申請経費については、金額の妥当性や事業終了後の継続可能性などの観点から、特に人件費を適切に見直すとともに、国からの補助期間終了後も確実な実施・展開に努めてください。

| | |
|---------|--|
| 大学名 | 富山大学 |
| 取組名称 | 和漢薬領域を基盤とした高度職業人育成事業 －和漢薬を創成・選択できる人材の育成プログラム－ |
| 研究科・専攻名 | 大学院医学薬学教育部・薬科学専攻・薬学専攻 |
| 取組実施責任者 | 今中常雄 |

[取組の目的]

平成22年5月29日、韓国済州島で開催された第3回日中韓サミットにおいて、大学の競争力及び優秀な人材の育成を強化することを盛込んだ、「日中韓三国間協力ビジョン2020」が採択された。

一方、平成18年より薬学部4年制・6年制が導入され、創薬分野の教育とともに臨床を含む薬剤師養成教育の充実が求められている。このことは薬学系大学院が育成しなければならない高度な専門職業人育成のために2つのカリキュラムを準備しなければならないことを意味する。すなわち、医療現場において即戦力となりチーム医療の中で薬物治療の要となる人材の育成、製薬企業において薬学研究、品質管理や開発業務に従事できる人材の育成である。中でも、専門性のある医療人育成が遅れている和漢薬領域の薬剤師と同医薬品を扱う製薬企業での研究者・品質管理者の人材育成が急務である。これらの課題は我が国に限ることなく、中国や韓国でも同様の課題を抱えている。富山大学では、医学薬学研究部とともに我が国で唯一の和漢医薬学総合研究所が設置され、共に薬学部大学院生への教育を行い、国内のみならず、国際的にも和漢薬の研究及び臨床利用をリードしている。これらのバックグラウンドを活用し、薬学領域の中でも和漢薬に関連する専門職スーパーエキスパートを育成する大学院専攻の設置により、日中韓の学生を受入れ専門職業人を育成するとともに、薬学イノベーションにおける三国間協力の一層の発展に資することのできるスーパーエキスパートを輩出することを本取組の目的とする。

[取組の概要]

本学薬学部は、6年制(薬学科)と4年制(創薬学科)の定員がそれぞれ50名と55名とバランス良く設置されている。いずれも学部を卒業しただけでは、昨今の急速に発展する薬学領域の専門家として活躍するには力不足である。薬学科卒業生は医療現場、創薬学科卒業生は製薬産業における実践力を大学院課程にて積む必要がある。本学は、今まで我が国の和漢薬研究をリードしてきた実績を持つ和漢医薬学総合研究所を併設していることから和漢薬専門薬剤師や和漢薬関連製薬企業への就職を志す学生の育成については国内のいずれの施設と比べてもトップレベルの教育を提供することができる。地域では和漢薬を基礎とする製薬企業や“きざみ製剤(和漢薬の構成生薬)”の調剤や服薬管理指導を実施している病院や調剤薬局が多い。一方、中国の薬学教育も西洋薬を専攻する科と、中薬(中医学)を専攻する科に分かれ、韓国でも西洋医学系と韓方医学(東洋医学)系の2つにわかれる。これらの専攻を終えた学生を受け入れ、本学大学院にて和漢薬専門薬剤師や和漢医薬製剤の研究に携わる人材を日本人学生とともに育成し、卒業後は日本、中国及び韓国の医療現場や製薬企業で活躍できるスーパーエキスパートの輩出を目的とする。

医学薬学教育部(薬学)博士課程において、薬学専攻と薬科学専攻の2専攻を設置する。薬学専攻では、病院におけるインターンシップを行う。このときに、和漢医薬研究所や医学薬学教育部(医学系)と連携して本学和漢診療部や漢方専門調剤薬局における研修を重視する。薬科学専攻では、博士前期・後期課程の連続性を維持しつつ、3カ月から1年にわたって富山県内の和漢薬の製薬企業で、研究のみならず、開発、品質管理、営業などを有機的に経験する。中国や韓国からの外国人学生は、最初の1年間は大学内で責任教員が公私ともに指導を行い、日本語、文化、習慣などに慣れさせる。この時、研究室でのみ生活を送るのではなく、薬学部1年生と共に製薬会社、調剤薬局や病院薬剤部への訪問を行い、日本の医療現場の見学を行う。薬学分野エキスパート養成のために、医療現場と製薬企業の両方でのインターンシップを行う。特に、県内にある2つの製薬企業と2つの病院からインターンシップの承諾を得ている。加えて、4年制と6年制の両方の卒業生がイニシャティブを取る臨床治験や医師主導型臨床研究へのマネジメント業務について、治験業務専門企業(SMO)でのインターンシップのプログラムを提供する。このことで、薬学領域の中でそれぞれが断片的に経験していた薬学出身高度専門職の融合を図る。

現在の我が国の薬学の置かれている状況から考えて、薬系大学院においては、4年制学部を卒業した学生には企業や研究での現場、6年制を卒業した学生には臨床薬剤師養成のそれぞれプログラムの提供がいずれの大学でも準備していることが予想される。富山大学では、それぞれのプログラムに日本人に加えて中国や韓国の薬科大学を卒業した学生を招聘し、和漢薬の知識を持つエキスパートを養成し、加えて、薬学領域での専門職を包括的に捉えることができるような大学院での専攻コースを組織する。